

左千夫の作品展 III

平成20年度資料館内企画展示の最後を飾る「左千夫の作品展Ⅲ」を1月6日から行います。

展示品は左千夫の書簡（手紙）・画賛（絵と文章が記載されている）などを展示します。

書簡は左千夫の最大の理解者であり、山武杉の父といわれる蕨真一郎（蕨真・農林山人）を中心に紹介します。展示は、自筆書簡を

上段に訳文中段に現代語訳を下段に並べます。

画賛は数が少なく2点の展示となりますが、1点は松の絵に「独居愛松」と記載したものです。期日は辛亥年とありますから、明治44年（一九一）左千夫晩年の作です。

左千夫はどうやら松が好きようです。明治33年（一九〇〇）4月29日に正岡子規が一度だけ左千夫の牧場

（本所茅場町）を訪ねています。その様子を『ホトトギス』

に「車上の春光」という題名で掲載しています。すでに子規は病気であり、人力車に横たわりながら町の風景を、見たままに表現しています。

その「車上の春光」の文中に左千夫家の庭の様子が書かれています。

「庭にはよろよろとした松が4、5本あって、下には

木賊（シダ植物）が植えてある。塵一つ落ちて居ない」よく「無一塵」の由来に使われる文章ですが、今回は「松」に注目してください。写真を見ていただくとわかりますが「車上の春光」の表現によく似た松のような気がします。

もう一点は民部里静※1が絵を描き、左千夫が「文句を言うな」と書いている画賛です。

民部里静の絵は鉄腕アトムのお茶水博士を連想させるような風貌です。どうやら左千夫の後姿を描いたもので、座禅でも組み、瞑想しているかのような感じですね。皆さんはどう思われますか？

左千夫作品展Ⅲを是非ご

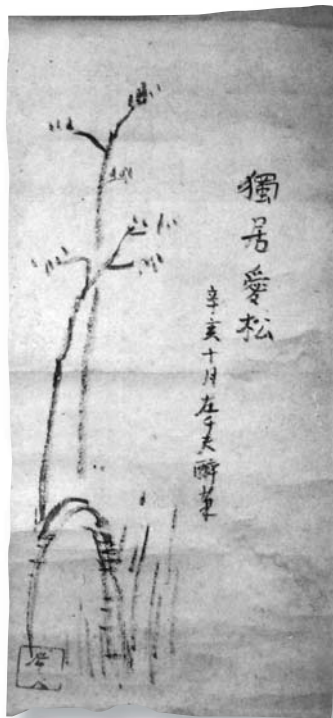


写真1 / 「独居愛松」



写真2 / 「文句を言うな」

※1…民部里静
左千夫と同時期に活躍した根岸派歌人。

覽いただいて感想を聞かせてください。